

平成 24 年 12 月 26 日

大阪国際交流センターと大阪市立大学都市研究プラザの共催で
市民ワークショップ「社会的企業における創造性～betterな生活と居住へ～」を
開催します

(公財)大阪国際交流センターと大阪市立大学都市研究プラザの主催により、平成 25 年 2 月 2 日(土)10時から12時30分まで、大阪国際交流センターを会場に市民ワークショップ「社会的企業における創造性～betterな生活と居住へ～」を開催します。

世界経済の深刻化、国内の財政状況の悪化により、わが国では若年層が仕事や住まいを失ったり、高齢者や障がい者のいる世帯が地域との関わりを失い孤立するなど、安心安全な住まいをベースにした生活の安定が得られない「居住貧困」という状況が深刻化しています。

ワークショップでは、「居住貧困」から生じる様々な問題や社会的弱者支援に対して先導的・特徴的なアプローチを図っている国内外の社会的企業の代表者を招き、各国の現状を紹介するとともに、大阪という地域的な特性や多文化共生との接点などの新しい視点も加え、社会的企業の役割とその将来像について、専門家を交え市民と対話型の議論を行います。

平成 22 年度より(公財)大阪国際交流センターと大阪市立大学都市研究プラザが主催する専門家会議である国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」の第 3 回目として 11 月 30 日(金)から 12 月 1 日(土)に実施した国際シンポジウム「居住貧困を断ち切る」の議論を踏まえ、国内外の実践者を招き市民向けのワークショップとして実施するものです。

参加は無料です。なお、同日は国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」を開催しています。ぜひご来場ください。

日時：平成 25 年 2 月 2 日(土)10:00～12:30

会場：大阪国際交流センター小ホール

参加費：無料

定員：150 名(先着順)

主催：公益財団法人大阪国際交流センター、大阪市立大学都市研究プラザ

プログラム：

10:00～12:30 パネルディスカッション
コーディネーター

中川 眞（大阪市立大学国際センター長、同大大学院都市研究プラザ教授）
パネリスト 日本、韓国、インドネシア、タイの社会的企業家 計 5 名

日本

大川 輝（POS 建築観察設計研究所代表）

太刀川英輔（デザイン事務所 NOSIGNER 代表）

韓国

崔賢珠（ジャバルテ代表）

インドネシア

Singgih S.Kartono（Magno 社長、デザイナー）

タイ

Nimit Pipitkun（Sema Thai Marionette ディレクター）

申込方法：

はがき、ファックス、（公財）大阪国際交流センターホームページのメールフォーム
のいずれかで、郵便番号、住所、氏名、電話番号、参加人数を明記のうえ、下記ま
でお送りください。

申込・問合せ先：

（公財）大阪国際交流センター 情報企画部 国際シンポジウム担当

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 8 丁目 2 番 6 号

TEL 06-6773-8182 / FAX 06-6773-8421 （毎日 9:00～17:30）

<http://www.ih-osaka.or.jp/>

【参考】

●プロフィール

[パネリスト]

日本

大川 輝（おおかわ あきら、POS建築観察設計研究所代表）

「此花アーツファーム」の中心メンバーとして、高齢化が進み空き家が目立つ大阪市此花区の梅香・四貫島エリアを舞台に、地元不動産会社と協働して、街の再活性化プロジェクトを展開する。「夢を持った若者を応援する街」をテーマに、アーティストやデザイナーなど創造的な活動を志す若者が集まる仕掛けづくりと、その活動が地域で連鎖し、街の魅力へと繋がりが広がっていく環境づくりに取り組んでいる。

太刀川 英輔（たちかわ えいすけ、デザイン事務所 NOSIGNER 代表）

「見えない物をつくる職業」という意味を持つ NOSIGNER の創業者。デザインによるソーシャルイノベーションを志し、科学技術・教育・地場産業・新興国支援など、社会的意義を踏まえたデザイン活動を続けている。プロダクト・デザイン、アートディレクション、空間デザインなど複数の領域で国際的に高い評価を受けている。被災地で役立つアイデアデザインを wikipedia 形式の web で共有する「OLIVE PROJECT」代表。

韓国

崔賢珠（チェ・ヒョンス、ジャバルテ代表）

ジャバルテは、貧困層に対する文化芸術事業である「楽しい文化学校」を、文化芸術教育・公演・ワークショップを中心に活動を続けていた。社会的企業に転身したことをきっかけに、地域に根拠をもつ文化芸術生産者協同組合を目指し、アート活動だけでなく人間と自然との共生社会の創造のため、地域住民・子ども・地方自治体と協働した活動を行っている。

インドネシア

Singgih S.Kartono（シンギ・カルトノ、Magno 社長、デザイナー）

インドネシア・トウマンガ地域での 10～30 代の若者を中心とした、木材を使用した「小さくて機能的な木工製品」づくりで、木材の有効利用と雇用機会を創出している。「木のラジオ」を始めとする製品は、デザイン性と高いクオリティで国際的に高い評価を得ている。売り上げの一部を植林活動支援として寄付し、森林を守る活動を行い、地域住民とともに持続的な地域社会活動の構築を行っている。

タイ

Nimit Pipitkun（ニミット・ピピクン、Sema Thai Marionette ディレクター）

人形劇団＜Sema Thai Marionette＞は、社会的企業として活動するだけでなく、特に貧困の問題を抱える地域において、人形劇のワークショップを通して子どもたちの潜在力・創造力を引き出し、コミュニティが経済的に自立・自活していくことを目指した新たな社会的企業として、注目されている。国際人形フェスティバルで数々の賞を受賞するなど、作品性・クオリティに対する国際的評価を受けている。

[コーディネーター]

中川 眞（なかがわ しん、大阪市立大学国際センター長、同大大学院教授）

京都大学文学部卒業、大阪大学大学院文学研究科修士課程修了。京都市立芸術大学音楽学部助教授を経て、大阪市立大学大学院文学研究科教授。インドネシア国立芸術大学客員教授、チュラロンコン大学客員教授。

●国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」

（主催：公益財団法人大阪国際交流センター、大阪市立大学都市研究プラザ）

大阪をはじめ世界の大都市は、金融グローバルイズムの暴風にさらされ、大量失業・コミュニティ崩壊・環境悪化などの困難に直面しています。これら様々な都市が抱える困難の解決策を探るために、（公財）大阪国際交流センターと大阪市立大学都市研究プラザが協力して、平成22年より継続的に国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」を開催しています。課題解決のために都市研究者や実践者たちを招き、大阪や世界の大都市が向かうべき方向や大都市を社会的・文化的にプロモーションするための議論がおこなわれています。

[過去の開催実績]

第1回国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」

平成22年12月15日（水）～17日（金）

テーマ「文化創造と社会包摂による都市の再興」

人口の減少、高齢化の進展、経済の衰退など、都市の活力が失われるなか、創造的な活動である芸術の力を活用した都市の再興について各分野の専門家から様々な提言をいただきました。

第2回国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」

平成23年12月1日（木）～2日（金）

テーマ「災害後社会とアーツによる地域マネジメント」

東日本大震災や各国の大災害により打撃を受け、傷ついたコミュニティや人々の心のケアをテーマに専門家会議およびワークショップを行いました。ワークショップでは地元大阪・関西で活躍する専門家の事例報告や海外からの研究者との意見交換を行い、アーツによる地域再生について活発な議論を交わしました。

第3回国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」

平成24年11月30日（金）～12月1日（土）

テーマ「居住貧困を断ち切る 居住福祉政策と居住支援型社会的企業の実践」

日本と韓国を例に国や自治体の居住政策を軸に、居住サービスの市場化、社会的企業による弱者への居住支援サービスなどの新しい動きを比較し、居住貧困を断ち切るための居住福祉のあり方について議論しました。